



もっと大きな 取り組みもあるんだ！

とうとフェス

3会場で産地・メーカーなど74の団体188人と来場者831人がにぎやかに交流しました。

この数年、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い開催できなかった「食の未来づくりフェスタ」ですが、今年は会場を足立・杉並・町田の3配送センターに設け、10月12日に「とうとフェス」を同時開催しました。組合員や近隣住民のみならずとたくさんの来場がありました。

各ブースでは、産地・メーカー、福祉作業所の商品販売や試食などを通じて交流を楽しみました。また、その会場でしか体験できないオリジナル企画や、3会場共通のスタンプラリーなども行われ、子どもたちの笑顔もあふれていました。組合員、産地・メーカー、職員が一堂に会するフェスは大盛況で終了しました。



東都生協平和のつどい

東都生協では、次世代に歴史の事実と平和の大切さを伝えていくため、平和について学び、交流する機会として「平和のつどい」を開催しています。

20回目を迎える今回は「平和を願い 耳をすましてみよう」をテーマに、8月17日、新宿区の牛込単管市民ホールで開催しました。猛暑にもかかわらず、組合員など約200人が参加しました。



アーサー・ビナードさんに、ご自身の著作の紙芝居「ちっちゃい こえ」と絵本「ドームがたり」の読み語り、制作にまつわるお話をいただきました。



東京在住被爆者の団体「東友会」の事務局長 村田未知子さんから、東友会の相談員として42年間で受けた相談の中から、実際の相談カルテをもとに、被爆者が受けた差別や孤独について講演していただきました。



組合員が編んだニットモチーフをサロンなどでひざ掛けに仕上げ、「ピースニット」として東友会の方へプレゼントする取り組みを行っています。今年も贈呈式を行いました。

地域を越えて、東都生協の組合員同士が出会える活動の報告です。



杉並会場には、「農業高校米」を育てている高校生が秋田県から参加。



Tohto Fan Meeting

東都生協の商品に興味がある組合員同士がつながり、学び、総代(組合員から選ばれた代表)の活動の不安や疑問などをざっくばらんに語り合う場です。

今年度、ここまでは2023年度総代を優先対象に、2つの企画…6月15日「JAやさと・朝日里山学校で野菜収穫&ピザ作り体験」、7月17日「簡単!ケーキサレでプチランチ&おしゃべり広場」の企画を行いました。

天候に恵まれました!有機栽培で作られたきゅうりを収穫。



2023年度総代に試食品として配付した「東都国産小麦使用ホットケーキミックス」の使い方を、東都人材バンクの講師から学びました。



朝日里山学校を運営されているNPO法人アグリやさと代表の柴山さん(JAやさとOB)、JAやさと職員2人、農業を始めて間もない2組の朝日里山ファーム研修生家族の方たちと交流しました。



大きな石窯のある調理場で、現地のトマトでつくったピザソースの上にそれぞれ野菜をのせてピザをつくりました。

「ケーキサレ」とは、お総菜感覚で食べられる塩味のケーキのこと。スコーンも作りました。コロコロサラダを添えて。

食の未来づくり運動

2008年の世界食料価格危機で、人々のくらしが深刻な課題に直面する中、次世代への安全・安心な「食」の継承と持続可能な食料生産と豊かなくらし、社会の実現に向けて提起されました。

【行動目標】

①食料自給率の向上

食費の5割以上は東都生協の商品を利用し、食卓から日本の農業を応援しよう

②日本の農業を元気に

年に1度は、生産者との交流や生産を支援する取り組みに参加しよう

③持続可能な社会に向けて

1人が5人に地域で「食の未来づくり運動」を伝え、その輪を広げよう



食の未来づくり運動
いのちをつなぐ大切な食べものを
未来につなげたい



2030年、こんな暮らしを送っていたい…

ふらっと・とーと

地域の誰もがふらっと立ち寄れる場

7月15日、地域の誰もが立ち寄れる場「ふらっと・とーと」が開所。

「東都生協みんなで居場所をつくらうプロジェクト実行委員会」には東都生協の呼び掛けに応じた地域の支援団体・一般社団法人チョイふるや大学など多様なメンバーが集結し、ふらっと・とーと開設へ向けて準備を進めてきました。



東都生協、チョイふる、足立区の三者で一緒に看板を設置。



同施設は、足立センター内の使われていない倉庫を改装したものです。区内の困窮子育て世帯への食料支援や、親子を居場所でする子ども食堂などに取り組む一般社団法人チョイふるが運営を担います。

一般社団法人チョイふるでは、施設の整備や運営に充てるためにクラウドファンディングを実施。オープニングセレモニーに参加した関係者やクラウドファンディング支援者は、施設内を見学して交流しました。

名称には「困っている人も、今は困っていない人も、そして支える人も、ふらっとどうぞ」という意味と、「支援する人とされる人の垣根をなくし、対等(フラット)な関係性を作りたい」との思いが込められています。

ふらっと・とーとでは毎月2回、子ども食堂を実施していく予定です。食を通じて、そこに集まる多世代が交流できるプラットフォームにしつつ、ボランティアについて知っていただくきっかけとなる場にと考えています。



オープニングセレモニーの日
に記念撮影。

東都生協2030年ビジョン

組合員、生産者・取引先、職員が
一緒にめざす3つのこと



1. 私たちは、「産地直結」の強みを生かし「未来ある子どもたちの健やかな成長」「どの世代も生き生きと輝くくらし」「地球環境の保全」を実現させる消費者をリードします。
2. 私たちは、組合員の切実な願いを正しく受けとめ、都市と農村をつないで食料自給率を向上させ、四季を織りなす豊かな自然と日本の農業を守ります。
3. 私たちは、組合員、生産者・取引先、職員の一人ひとりの想いを大切にして、どんな時でもつながりを絶やすことなく、社会の課題解決を果たすことで、究極の「ありがとう」の輪を広げます。

東都生協「食」の学校

東都生協は、2021年度通常総代会で決議した「2030年ビジョン」(下段参照)のもと、「食と農の感動体験を通じて、みんなの未来をしあわせにする」組織になるべく、活動と事業を進めています。

消費者の食を選択する力を養うための学びの場として開設された、組合員向けのオンライン学習プラットフォームです。食や農、くらしに役立つ情報などについてより深く理解し、適切な選択を行う力を身につけることを目指します。現在は2024年度の後期が終わりつつありますが、受講は随時受け付けています。参加には事前の登録が必要です。



動画内容

- 《食コース》日本の水田の現状と課題 お米の消費を考える
- 《農コース》改正された食料・農業・農村基本法の内容と課題
- お豆腐から考える 日本の食料自給率と国産の魅力
- カラダにいい洗濯術
- 農業の基礎知識
- 食料アレルギーを学ぶ/卵・乳・小麦を使わない料理紹介
- 防災・減災について学ぶ
- 食品表示について
- 食品添加物の基礎
- 遺伝子組換え表示制度について
- 商品丸わかりオンライン学習会動画(16タイトル)

食料・農業・農村基本法への働きかけ

食料・農業を巡る状況がこの数年で大きな変化を迎える中、「農政の憲法」とされる「食料・農業・農村基本法」の改正法が2024年5月の通常国会で成立しました。

東都生協を含む生活協同組合6グループ(他はパルシステム生活協同組合連合会、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、生活協同組合連合会、コープ自然派事業連合、生活協同組合連合会アイチョイス、グリーンコープ生活協同組合連合会)は、産直を通じて消費者と生産者をつなぎ、持続可能な社会づくりを追求してきました。私たちは、同法の見直しに当たって、国内の農畜水産業を守り、食料自給率向上に向けて踏み出す大きな機会と捉え、協議を重ね、合同学習会も開催し、多くの消費者や生産者の声を取りまとめた。

とめて、消費者団体の立場から政府に提言を行いました。私たちの提言に対して、改正法には不十分な点や課題があります。同法の内容の検証と課題、農業を巡る状況について知見を深め、同法に基づき策定される「食料・農業・農村基本計画」に消費者・組合員、生産者の声を反映できるようにしていくため、10月11日(金)に6生協合同でオンライン学習会を開催しました。



組合員、生産者・取引先、職員が
一緒に挑戦する6つのこと

1. 食の未来づくり運動の実践で、社会や消費者のくらしに貢献し、生産と消費の次世代継承を果たします。
2. 都市と農村を結び、社会の豊かさを考える食と農の学びと交流を推進します。
3. 地域で多様な人が世代を超えてつどい、子育てやシニアライフなどを支え合うコミュニティを充実させます。
4. 自然と風土を守り、地球環境と真摯に向き合い、限りある資源を未来につなぐ社会を築きます。
5. 人々の助け合いの輪を広げ、平和で災害に強い、安心してくらし続けられる地域づくりに取り組みます。
6. 変化する人々のくらしを支え、仕事を通じた社会貢献で、誰もが生きがいを持って働ける環境をつくります。

